

第30回「食」と「漁」を考える地域シンポジウム

道東沖のサンマ・サバ・イワシ漁の動向をさぐる

共催：(一財)東京水産振興会・(一社)漁業情報サービスセンター

後援：(予定)釧路市・(一社)釧路水産協会・釧路市漁業協同組合・釧路魚市場株式会社・
釧路水産物流通協会・釧路市水産加工業協同組合・釧路水産加工振興協議会・
北海道まき網漁業協会・釧路水産試験場・全国さんま棒受網漁業協同組合・
北海道新聞社・釧路新聞社

と き：2015年8月4日(火) 13:00 - 17:00

ところ：マリントポスクしろ3階大研修室

(釧路市浜町3番18号くしろ水産センター内 電話：0154-22-0191)

コーディネーター：二平 章(漁業情報SC・茨城大学人文学部)

◇プログラム◇

主催者挨拶：西本真一郎(東京水産振興会振興部長) 13:00 - 13:15

来賓挨拶：蝦名大也(釧路市長)

趣旨説明：コーディネーター

●基調報告

1. 北太平洋漁業資源保存条約の発効とサンマの国際的管理 13:15 - 13:45

田中健吾(水産庁資源管理部首席漁業調整官)

2. ロシアおよび東アジア諸国におけるサンマ需要の動向 13:45 - 14:15

ウラジーミル・ツルーポフ(ロシアサブサングループ・アジアパシフィック)

●話題提供

○セッション1：サンマの沖合分布と来遊動向

1. 沖合サンマの資源動向と生物学的許容漁獲量(ABC) 14:15 - 14:45

中神正康(水産総合研究センター東北水産研究所主任研究員)

2. 漁期前調査からみたサンマの来遊動向 14:45 - 15:05

稲川 亮(釧路水産試験場研究主任)

(休憩 10分)

○セッション2：サバ・イワシの資源動向と道東漁場への来遊

3. 常磐から房総近海の漁獲からみたサバ・イワシの資源動向 15:15 - 15:05

須能紀之(茨城県水産試験場回遊性資源部長)

4. 道東沖の海洋環境とサバ・イワシの来遊見込み 15:35 - 15:55

三橋正基(釧路水産試験場研究主幹)

●総合討論

16:00 - 17:00

司会：コーディネーター

■交流会■ 会場「炉ばた 煉瓦」

17:30 - 19:00

(釧路市錦町3-5-3 電話：0154-32-3233) (ANAクラウンプラザホテル裏)

交流会費 3,000円(飲み放題)

(裏面もご覧ください。)

■開催趣旨■

初漁期における道東へのサンマ来遊が低調となって5年、公海上では外国船が18万トンを漁獲する時代となり、近年、サンマをとりまく状況は大きく変化してきている。そのような中、この7月、北太平洋漁業資源保存条約が発効され、いよいよサンマの国際的管理の時代に入る。また、近年、本シンポでも指摘していた道東サバ・イワシ漁場の復活が現実のものとなり、昨年はサバが2万3,000トン、マイワシが3万9,000トンをこえる漁獲となった。サンマはもちろんサバ、イワシの資源動向は道東の加工流通産業にとっても関心の高い課題である。そこでここでは太平洋サンマを巡る国際的な動きを探ると共に、サンマ、サバ、イワシの今期の来遊動向について議論する。

■第30回地域シンポ 参加申し込み■

参加希望者名、連絡先等、必要事項をご記入の上、下記宛先までFAX、もしくはお電話、メールにてお申し込みください。参加申込は、7月28日（火）までをお願いいたします。

※シンポジウム、交流会（参加費3,000円）への参加について、必ず欄内に○×をお願いします。なお、参加申込は先着順にて受付いたします。

○一般社団法人 釧路水産協会 （山田）宛
 FAX：0154 - 23 - 2971 電話：0154 - 23 - 2970
 E-mail：kushiro-suikyo@white.plala.or.jp

氏名		所属先 部署名	シンポ ジウム	交流会
①				
②				
③				
代表者 連絡先	(ご住所) 〒			
	(お電話番号)			
	(FAX番号)			
	(メールアドレス)			
@				

※ご連絡する際に必要となりますので、電話番号とE-mailアドレスを必ずご記入ください。今後、シンポジウムやイベント等のご連絡に使用させていただきます。 ※定員に達した場合、期限よりも早く受付を終了する場合がございます。